

# 更新講習会・講習内容の確認について

令和4年度

登録番号		氏名	
------	--	----	--

次の記述について正しいものには○、誤っているものには×を付けてください

## 1. 【診断と補強について】

(ア) コロナ禍の中、現地調査時に於いてマスクを着用している為、夏場で暑かった  
のでエアコンをつけて窓を閉めて調査を行った。

窓・ドアを開けて換気をさせて頂く ( × )

(イ) 診断は原則、極めて稀に発生する地震動による倒壊の可能性の有無について実  
施する。

( ○ )

(ウ) 屋根は土葺き瓦葺き、外壁、内壁ともに土塗壁の住宅を、屋根及び壁が重いた  
め「重い建物」として診断を行った。

非常に重い建物として診断を行う ( × )

(エ) 「診断専用」として扱う塗厚 50 mmの土塗り壁を、新設の補強部材として使用し  
た。

補強部材として使用できない ( × )

(オ) 旧 38 条認定によるプレハブ工法の木造住宅は診断適用外である。

( ○ )

## 2. 【Q&A と判定会からの留意点について】

(ア) 現地調査の結果、全面裏返し塗りのない土壁だったが、片側が良好な状態であ  
ったため耐震診断では耐力壁と判断した。

木舞への定着が減少する為、非耐力とする ( × )

(イ) 診断書作成の際「掃き出し型開口壁」と「窓型開口壁」が連続していたので、  
一体の連続した「窓型開口壁」として入力を行った。

一体の「掃き出し型開口壁」と見なして評価する ( × )

(ウ) 耐震補強の際、土壁 (C) の荒壁をはつり小舞下地を痛めたが、下地は強  
度上重要ではないため、特に強度の低減は考えずに土壁 (C) の耐力を評価した。

評価出来ない ( × )

(エ) 診断書作成の際、評価できる有開口壁の長さは3 mを上限とする為、連続する長さ5 mの開口壁は、3 mと2 mに分けて別々に入力を行った。

合算入力 ( × )

(オ) 2階建ての木造住宅で壁端柱の柱頭・柱脚接合部の仕様について、ほぞ差しで構面の両端が通し柱となっていた為、1・2階ともに接合部Ⅲとした。

( ○ )

### 3. 「補強の問題点と注意事項について」

(ア) 耐震補強計画において、補強箇所は、補強の合理性、補強に係るコスト、又家主の希望も聞き決定した。

( ○ )

(イ) 無筋コンクリート造布基礎に生じているひび割れ(1.5mm)をエポキシ樹脂注入により補強した。

鉄筋コンクリート造の基礎に変える、鉄筋コンクリート増し打ちする

( × )

(ウ) 土塗壁が連続する短ほぞ差しの中間柱について、N値計算によって引き抜きが生じない箇所については、金物補強しない場合でも接合部1(低減なし)で計算しても良い。

引抜きが生じなければ金物の有無に関係なく接合部Ⅰを使用できる ( ○ )

(エ) 準耐力壁による補強は、床から天井までの補強で済み、直下の基礎・土台また、直上の梁の有無は問わない。

基礎・土台・梁の存在が必須である ( × )

(オ) 耐震補強工事において施工者は、不明な点がある場合、設計者(工事監理者)に確認し、計画通り耐震性能が確保されるよう施工する。

( ○ )

開始から15分が経過しましたら、司会者から案内がありますので、それに従いお帰り頂いても結構です。

お忘れ物のないように、気を付けてお帰り下さい。本日は、お疲れ様でした。

**考査時間内の退出は、お静かにお願いいたします**  
**ます**